

全国最初の女学校対抗野球戦

1923(大正12)年05月20日 橋本高女グラウンド

学校名	一	二	三	四	五	六	七												合計
橋本高女	2	5	0	3	3	1	1												15
粉河高女	3	3	7	1	9	4	A												27

(球審:池永 前田 壘審:川口 堀川 / 開始=10:00 終了=11:50)

橋本高女											粉河高女												
打	得	安	三	四	盗	犠	失	刺	捕		打	得	安	三	四	盗	犠	失	刺	捕			
数	点	打	振	死球	壘	打	策	殺	殺		数	点	打	振	死球	壘	打	策	殺	殺			
2	瀧脇	3	4	1	0	2	2	0	0	4	0	2	吉野	6	4	4	0	1	4	0	2	8	0
7	堀内	3	3	1	1	2	1	0	2	0	1	4	小畑	6	5	3	0	1	5	0	1	0	0
4	堀	4	2	1	2	1	0	0	0	1	0	1	細濱	3	4	0	0	4	4	0	1	1	5
6	岡村	4	1	0	1	1	2	0	4	1	1	3	兒玉	6	3	1	1	0	2	0	1	7	0
3	村上	4	0	0	1	1	3	0	1	4	0	9	藤本	4	2	1	1	2	1	0	1	1	0
8	久保	5	1	2	0	0	1	0	0	0	1	6	松尾	2	3	1	0	4	2	0	1	0	0
5	長束	2	1	0	1	2	3	0	5	3	0	7	向井	5	3	2	0	1	0	0	1	0	0
9	上田	1	1	0	1	3	3	0	0	0	0	8	釘貫	3	2	0	1	3	3	0	0	0	1
1	松岡	2	2	1	1	2	3	0	1	0	3	5	田村	6	1	3	1	0	2	0	0	0	0
計											計												
28 15 6 8 14 18 0 18 13 6											41 27 15 4 16 23 0 8 17 6												

本壘打
堀 三壘打 向井 藤本
堀内 二壘打 小畑 向井

粉河橋本両高女の試合

全国最初の女学校対抗野球試合たる粉河高女対橋本高女の野球戦は二十日午前十時 橋本高女グラウンドにて開始、橋本先攻、球審池永 前田 壘審川口、堀川、ルールは少年野球規定に據ってスポンヂボールを用い 橋本軍よく力戦したが老練なる粉河軍に比して打撃守備ともに一日の短を免れず二十七アルハ対十五の大スコアを以て粉河軍勝ち 午前十一時五十分閉戦、橋本軍は相擁して悲憤の涙に咽んだ

橋本高女	1	2	3	4	5	6	7
2 瀧脇	四球	四球		中飛失	中飛安打	投ゴロ失	
7 堀内	二塁打	死球		四球	一塁ゴロ(I)	三振(III)	
4 堀	三振(I)	三塁打		四球	右飛球(II)		三振(I)
6 岡村	右ゴロ失(II)	投ゴロ(II)		一塁ゴロ(I)	三振(III)		四球
3 村上	遊ゴロ	投ゴロ(III)		投ゴロ(II)		四球(I)	三振(II)
8 久保	投飛(III)		投ゴロ(I)	内野安打		中前安打	投ゴロ(III)
5 長束		四球	二塁ゴロ(II)	三振(III)		死球(II)	
9 上田		三振(I)	四球		四球	四球	
1 松岡		内野安打	三振(III)		四球	四球	

※橋本 二回より投手 村上、四回より松岡

粉河高女	1	2	3	4	5	6
2 吉野	四球	左前安打	中前安打	左ゴロ		中前安打 中堅安打 遊ゴロ
4 小畑	右前安打	左安打	遊ゴロ失		二塁打 死球	遊ゴロ(III) 捕飛(II)
1 細濱	四球	投ゴロ(I)	四球		四球(III) 投ゴロ	死球 投ゴロ(III)
3 兒玉	三振(I)	左安打	遊ゴロ失		遊飛(I) 投ゴロ失	投ゴロ(I)
9 藤本	四球	遊ゴロ(III)	三振(II)		四球 投ゴロ失	三塁打
6 松尾	四球	死球	左安打		死球 死球	遊飛失
7 向井	四球(III)	投ゴロ(II)	三塁打		三塁飛(II) 内野安打	二塁打
8 釘貫	三振(II)		四球	四球		右飛(I) 四球 投ゴロ失
5 田村	中前安打		三振(I)	遊ゴロ失(III)		内野安打(II) 二塁打 遊ゴロ失

大阪朝日新聞(紀伊版)1923(大正12)年05月22日付より

高女野球観戦記

◇粉河高女と橋本高女がインドアベースに據らずして少年野球規定とノック、バットにスポンジボールを用いた純野球の対抗戦を挙行したのは恐らくは全国の高等女学校中コレが嚆矢であろう、試合の結果は別として女子運動界に一生面を開いた点は多とせねばならぬ

◇試合の結果は両軍とも四球と盗塁が素晴らしく多かった、四球は投手の練習不足にも據るが一面には打たれてはならぬという女性らしい心から球が傍へそれて行くようにも思われた、四球程味方の元気を滅殺するものはない 殊に第一回に橋本の投手松岡のボックスに立つた打者九名の中五名まで四球を出しムザくと三名に押し出しの得点を許したのは惜しい、盗塁では両軍ともやすく二塁はおろか三塁までスティールにして行く、これを防止する練習を積んで居ない為めでもあろう 粉河の捕手吉野の肩を以てすれば優に投手の頭上を越して二塁まで牽制球を投げ得られぬ事はない、二塁までともかく最も至難と称せられる三塁を易くスティールしてしまうのは捕手が三塁へ投球する事が勤いのにも據るが投手が失策を恐れて三塁へ投球せぬ点もあろう、何よりも練習を励む事だ

◇試合中最も好かつたのは橋本の捕手瀧脇の元気である 大勢既に定まつて挽回至難となり

味方の意気沈滞する中に殆んど勝敗を念頭から取り去つた如く終始快活であつた瀧脇は『捕手は扇の要、須く元気なれ』との法則によく適つて居る 又、粉河の投手細濱が十点以上を勝ち越しながら毫も敵に同情を見せぬと共に驕恣に流れず真摯であつたのは『試合に同情は絶対的禁物』という真諦をわきまえたものでコレも愉快に思われた

◇それから試合中に船を山へ上らず船頭の多いのはどうした事か、何れチームに関係のある人には相違ないが審判員に対して抗議を持ち出し試合を遅らすなどは考え物だ、又フェーヤグラウンド内に入り込んだ写真屋が打者の打つた匍球を留めようとしたり柵の向うに居た子供が球を拾つて来ようとしたりするのには野球に対する思慮の足らぬ結果ながら無謀もまた甚しい、今後は徹底的に取締る必要がある 尚 聞く処によれば選手の父兄中にも野球を快しとせざる意嚮の人があるというが速かにスポーツをよく理解して折角生れ出た女子の野球を守り育て、欲しいものである(和歌山＝一記者)

大阪朝日新聞(紀伊版)1923(大正12)年05月23日付より

和歌山県下女学校野球

最近女学生間に野球熱が勃興して來たが和歌山体育奨励会では本社通信部後援の下に十五日午前十時から和歌山高女グラウンドで第一回和歌山県下女学校野球大会を行うこととなつた、我国女子運動界の新しい試みとして大阪方面の各女学校から多数の見学ある筈、試合番組は左の通り(雨天の節は廿二日に延期)

- 第一回(午前十時)橋本高女対粉河高女
- ▲第二回(午後一時)粉河高女対和歌山高女
- ▲第三回(午後三時)和歌山高女対橋本高女

大阪毎日新聞 1923(大正12)年07月15日付より

滑り込みなどは平気 安打を飛ばしたり尻餅をついたり 和歌山の女学校野球大会

女子がバットを振るなどは何日の事かと思われたのに本社和歌山通信部後援 和歌山体育奨励会主催下に十五日和歌山高女グラウンドで珍らしい女学生の野球試合が行われた 梅雨空に陽の光がさしてスタンドは男女の観衆で沸立つばかりの好人気であつた 塁と塁は十一間半のダイヤモンド ボール、バット、ルールまで何れも少年野球を応用したもので和歌山、粉河、橋本 三高女の選手が入場すると満場に轟くような拍手が湧く 早速シートノックに移る ユニホームはスカート付の軽い運動服で橋本は白の上衣に水色のスカート 粉河は碁盤縞の

運動服、和歌山はセーラーの上衣に和女と赤く校名を現してスカートは学校袴である どの選手も髪はぐるく巻にし白木綿の鉢巻甲斐々々しく純白の靴下に運動靴を穿いて優しい手にグローブやミットを嵌め綺麗な声でサインしながらバット片手に男まさりにフアインプレーを演じる

試合は午前十一時五分 松村内務部長の始球式に始まり井口、小笠原、矢部等和中の先輩の審判で橋本高女対粉河高女第一回戦の火蓋を切る 粉河先攻で劈頭橋本の投手が見事に三振を喰わせるとナイスピッチ「平気平気だ打たせく」と選手や女生徒が金切声を立てる バッテリーのサインもやれば走者の牽制等も一人前にやつてのける 投手の腕からはドロツプやアンダスロー等が飛ばされる

盗塁は女だけに少し鈍いが迂り込みなどは平気なもの 安打や二塁打も憂飛ばせばホームランくと歓喜の叫びを挙げるし 直球を片手で受ける猛者もあるが時にストライクの数をおぼれたり取れる球をも遠慮したり尻もちついて思わぬしくじりに笑わせる事もあつた

ゲームは七回、試合は一校二回宛の対抗で試合成績は左の通りで粉河高女が優勝した 第一回 粉河廿対橋本十 第二回 粉河五A対和歌山四 第三回 和歌山十二A対橋本十 尚 優勝校には本社優勝旗 メダル、銀カップ、花環等の副商品を贈呈、時に午後五時廿分 男の彌次もなく静かに見物してゐたのは特筆に価する

大阪毎日新聞 1923(大正12)年07月16日付より

本日の女子野球 市岡高女で

本社は過日來尽力の結果 日本女子野球研究会の設立を見たが 今度同会の賛助を得て愈々 今九日府立市岡高等女学校庭で競技會を開くことゝなつた 参加校は

築港北小学校▲岸和田市小学校▲市岡高女▲泉南高女▲和歌山高女▲粉河高女の六校で午前十時入場式を行い試合に移る予定である 既に粉河高女選手十二名は八日夕 前田監督引率の下來阪し何れも大元気で奮闘を期してゐるが泉尾、三島高女を始め女学校、小学校等より多数参観の申込みもあり本日は多少の雨でも決行することゝした (男子の入場は謝絶す)

大阪毎日新聞 1923(大正12)年12月09日付より

二千餘の觀衆から 大喝采を博した女子野球 粉河7対6で和女に勝つ

大阪最初の試みとして各方面から期待された第一回女子軟式野球試合は九日 府立市岡高女校庭で開催された 空は曇つたが寒からず参観の女生徒並に婦人達は二千餘に達した 午前十時 参加選手は凜々しいユニフォーム姿となり築港北、岸和田、市岡、泉南、和歌山、粉河の順で

入場式を行いダイヤモンドを一周の後 木下本社運動課長の挨拶に次で 築港北対岸和田校の試合に勇ましく処女球は投げられ綺麗なジャケツの少女達が初めてのプレートに立つたと思わぬ失敗や可愛らしいゲームに観衆を喜ばせた試合は三回、五A対一で岸和田校の勝となり続いて市岡高女対泉南高女(球審湯淺、塁審 井川)の戦いに移った

市岡11 泉南2

市岡先攻で両校とも初陣ながら流石に練習の跡が見えて泉南田代投手は初年級の年少に似ず速球とコントロールは未来あるものとして瞩目され打撃に於て相応揮つたが守備に於て市岡の乗ずる所となり市岡第一回一点、第四回三点、第五回一挙七点を入れたに反して泉南第一第二両回に一点宛を入れたのみで敗れたが大阪の女学生の初めての試合としては可なりエキサイトしたゲーム振りに喝采は鳴りも止まず第五回のコールドゲームを惜まれた

チーム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
市岡高女	1	0	0	3	7					11
泉南高女	1	1	0	0	0					2

市岡高女			泉南高女		
6 臼井	27	打 数 18	5 田端		
3 新川	11	得 点 2	6 島本		
4 首藤	2	安 打 1	1 田代		
2 安藤	8	三 振 6	3 白井		
7 金澤	3	四死球 5	9 辻		
8 石原	12	盗 塁 6	7 阪口		
5 瀧	0	犠 打 0	4 林		
1 佐藤	6	失 策 14	8 濱谷		
9 田中			2 ト半		

かくて此日 本社の招待に依り遙々和歌山より來阪した和歌山対粉河両高女の模範試合は午後一時卅分 日下球審、井川塁審の下に満場の拍手裡に和歌山先攻で火蓋は切られた
粉河7A和女6 和歌山の雪辱成らず

和歌山は今夏大会に五A対四で粉河に惜敗せる歴史あり 今回は雪辱戦とも見るべきもので劈頭から白熱戦を思わせたが粉河は第一第二両回に二点宛を占め和歌山第四回まで凡打を続け第五回に四球満塁の好機を得て漸く一点を占めたが第七回二死後敵失と混乱に乗じ四球と安打で一挙五点を入れ大勢逆転の感があつたが粉河同回裏に三点を得て一点の勝越しとなり七A対六の接戦で和歌山軍は惜しくも敗れた 両軍伯仲の技倆に観衆の感激は高潮に達し女子軟式野球としての興味と理解を強めた日本女子野球研究会より選手一同へ参加賞を授与し盛況裡に午後三時 会を閉じた

チーム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
和歌山高女	0	0	0	0	1	0	5			6
粉河高女	2	2	0	0	0	0	3			7

和歌山高女

7 竹葉 28 打 数 25
 2 浦野 6 得 点 7
 8 津田 7 安 打 3
 4 阿部 8 三 振 11
 6 北島 6 四死球 7
 3 後藤 5 盗 塁 11
 1 谷田 0 犠 打 0
 9 土橋 6 失 策 6
 5 宇田

粉河高女

4 細濱
 3 兒玉
 5 田村
 2 吉野
 6 田中
 9 津田
 7 龜井
 8 向井
 1 藤本

大阪毎日新聞 1923(大正12)年12月10日付より

女子野球団訪問記 愛好生

◇すみれ倶楽部

市外天下茶屋を下りて左へ進んだ所に本部がある。私が訪問すると居合せた幹事の大野氏が色々御話して下さった。部員は現在十二名で女学生が多く女事務員も二三名居て創立以来一年たつてゐてその成績は五勝四敗であるとの事で試合はスポンジだがキヤッチボールなんかは硬ボールを使つてゐるそうである。打撃は女だけに割にきかないが守備は相当よく年齢は十六歳前後である。近頃は盗塁の必要のためランニングの練習もさしてゐる、此月は練習は休みなので練習振りを見ないで帰つた。

ウーマン倶楽部

住吉の埋立地で練習してゐるとの事を聞いて日曜の朝見に行くと丁度矢張り住吉の中学一二年生の者の倶楽部と試合をしてゐた。私の行つた時は三対五でウーマン軍が敗けて居たがボックスに出た、ウーマン軍の一人が三塁打をはなち その次がバンド次が四球で満塁になりその時出た打者が二塁横を抜く安打に出て一人生還し遊撃があわてて抛げた球を一塁手が逃した爲一挙に三点取つてしまつた。女ながらあざやかで有つた。試合は九対四(マ)でウーマン軍が勝つた。何時かの野球界に出て居た通り此の倶楽部は不良少女ばかりで附近でもきらわれてゐるそうだ。其の日も試合後二三の少女は平気で煙草を吹かしてゐた。試合中にも女にも有るまじき態度で彌次つてゐた。私がある一人の少女に聞く所によると部員は十名で年齢は十八歳が二人 十七歳が六名 十六歳が二名で、女工二名 女学生三名 女事務員四名 何もして居ない者一名で成績は十二勝三敗で大変成績が良い

女子野球会

市外天下茶屋阪南二四の番地をたどつて同会を訪問した。早速練習場へ案内して下さった。三分に分かれて打撃捕球の練習の最中こちらでは投手と捕手が熱心に練習してゐる。ボールはと見ると硬ボールでやつている で何故スポンジでやらないんですかとマネージャーの方に聞くと部員の者が軟球でやると面白くないと云つてあゝして硬球でやつてゐるのですと

答えられた。投手は大柄なおとなしい美しい人で投球はゆるいけれ共カーブなんかもやつて捕手は五尺位で色は少し黒いが快活そうに投手とのサインなんかもやつてゐる こちらでは五六人がバツチングをやつて居る 相当に皆よく打つてゐた。練習後部員の方と一緒にお茶を頂いた。今は部員は十四人で皆お嬢さんで女学生ばかりである丈けに皆が快活で無邪気である一人の方に何所かのチームと試合をなさつては……と云つたらまだあきませんわと笑つてゐた。実際此のチームは気持良いチームである。

白波倶楽部

一度野球界で紹介せられた事があるがあの頃は男女一緒であつたが近頃分離したそうだが訪問する機会が無かつた。

雑誌「野球界」第14巻第6号 1924(大正13)年05月01日発行より

第一回日本女子オリンピック大会

[前略]一方軟球とバレーボールとは第二会場 市岡高女校庭に開催し婦人のみの観衆を以て盛大に競技を続けられた、かくて健母会並に中央運動社合同主催、本社後援のこの大会は女子体育進展の目的を十二分に達して夜の帳りの閉ざされるまで華かに続けられた、各競技の決勝記録は左の通りである

野球は和歌山 粉河軍敗る

午前九時卅五分開始 大阪泉南、市岡、和歌山、粉河の四高女 参加

和歌山26泉南9

朝井(球)村上(塁)両氏審判、泉南先攻

チーム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
泉南高女										9
和歌山高女										26

泉南高女			和歌山高女		
1 田代	13 打 数	17	612北島		
521石垣	9 得 点	26	8 村上		
9 阪上	0 安 打	3	4 川村		
6 河合	11 三 振	8	2 後藤		
7 白井	12 四死球	20	17 河野		
3 西出	1 盗 塁	22	9 西岡		
4 松原	0 犠 打	0	76 和田		
8 須藤	5 失 策	1	5 竹葉		

粉河12市岡2

内海(球)岡田(塁)両氏審判、市岡先攻 六回戦

チーム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
市岡高女										2
粉河高女										12

市岡高女

1 佐藤	18	打 数	25
4 首藤	2	得 点	12
2 安藤	2	安 打	2
6 臼井	4	三 振	4
5 平尾	8	四死球	8
8 酒井	6	盗 塁	5
7 諏訪	0	犠 打	0
9 金澤	5	失 策	2
3 新山			

粉河高女

6 龜井
9 藤本
4 田中
1 木村
2 田村
5 釘貫
8 松浦
3 津田
7 藤本

和歌山14粉河11

決勝戦は午後三時挙行(球佐伯、塁川越)和歌山先攻
粉河第一回一点を先取したが第二回和歌山猛襲して一挙
七点を挙げ粉河も三点を恢復したが依然和歌山優勢で
最終の七回に至り僅か三点の差となり極度に緊張したが
和歌山好守して入らしめず十四対十一で和歌山の優勝に
帰し五時五分閉戦

チーム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
和歌山高女										14
粉河高女										11

和歌山高女

6 北島	33	打 数	31
8 村上	14	得 点	11
4 川村	9	安 打	5
2 後藤	13	三 振	8
1 河野	12	四死球	7
9 西岡	7	盗 塁	11
7 和田	0	犠 打	0
5 竹葉	5	失 策	3

粉河高女

6 龜井
9 藤本
4 田中
1 木村
2 田村
5 釘貫
8 松浦
3 津田

大阪毎日新聞 1924(大正13)年06月16日付より

勃興して来た女子野球

生理上にも何等差支えない 府学務課で調査した

本社が昨冬 和歌山、粉河両高女軍を招待して女子野球を社会に紹介して以来、それに対する理解と興味とを高め各地に於て是れが実施を見るに至つたが、大阪府学務課では文部省の調査方針に従つて府下公私立高等女学校について女学生の野球実施の様態を調査した、その結果によると現に野球を実施してゐる高女校としては大手前、市岡、泉南の府立三校と大阪信愛 樟蔭の私立二校とがある、その中で大手前は校友会に野球部を設置して昨年来これを奨励して居り、市岡高女と泉南高女とは既に選手を本年挙行せる第一回日本女子オリンピック大会に出場せしめ相当の戦績を納めてゐる程で、殊に泉南高女では従来女子運動競技は個人的なものが多く団体的訓練をなすために野球を特に奨励してゐる有様である、又 信愛高女では運動場が狭隘なので目下 軟球を使用せしめ、樟蔭高女では高等科生に限つて野球をなすことを認めてゐる 其他の各高女校の生徒は未だ野球を実施してゐない、併しその内でもインドアベースボール位は可とするものもあり、或は目下 研究中のものもある、堺高女の如きは適当な指導者があり他の生徒の妨げとならないやうな運動場の施設が出来れば生徒中の希望者には野球を許可してもよいという方針である、女子の野球実施の可否については府学務課としても何等の方針を示してゐないが右について皆吉主事は個人の意見として左の如く語る

女子の野球を彼れ此れ云うものは主として感情的に「よい」とか「悪い」とか云うので生理上何等悪影響を及ぼすものではない、若しその運動が過激であると云う理由の下に之を否認するのであれば、バスケットボールなどは野球以上に激動を要するものであるがバスケットボールについて今日何等の批難を聞かないではないか、私は野球の使用器具を女性的に改良し、武装もスカートなどを用いずパンツを使用するとか適当な方法を講ずれば何等差支えないものと考えてゐる

大阪毎日新聞 1924(大正13)年10月08日付より

関西女子野球に付て KS生

関西に於て女子の野球が漸次普及されんとして居た、和歌山に於ける二三女学校 大阪に

於て岸和田泉南女学校市岡高等女学校及愛媛県福岡県に於て行われつゝあり発達せんとしつゝあつた折柄訓令によつて女子野球を禁止されて女子の野球は折角芽を出しつゝある折を摘まれてしまつたのは此上もない残念である、而し近頃野球技の趣味が女子にまで及んで來た事は事實である 即ち大正十四年に大阪を中心として各所で行われた大学選手を初め大は宝塚のチームの大試合に多数の女子が入場料を払つてまで觀覽して居るのを見ても證據だてる事が出来る、殊に三十歳以上の女子が入場しておるのを見れば、今後野球技が全国の女子間に普及される、ことは疑もなかつたのである、又昨年三月末に大阪第二上福島小学校の尋常小学生が富山へ遠征した時も五分の一は女子の觀覽者であつた斯る多大の希望と興味をもつて期待されてこれに日本女子野球協会が大阪で設立されて大毎後援の立場にまでなろうとして居た今日に全々訓令の禁止に至つたことは意外であつた。これがため関西の女子野球は火の消えた様にすたれてしまつた、果して此の訓令が如何なる効果もたらすかは識者の最も注目する所である。

雑誌「野球界」第15巻第4号 1925(大正14)年03月01日発行より

第二回日本女子オリンピック大会 軟式女子野球

大会競技種目の一なる軟式女子野球は桜井高女並に桜友俱樂部が参加する

桜井高女優勝

桜井高女対桜友俱樂部の野球戦は、午後三時より榎原(球)寺島(塁)両審判、桜井先攻で開戦、桜井善く打つて敵失に乗じ第一回四点、第二回五点、第五回四点、第七回二点を得たが、桜友第二回一点、第三回一点、第五回三点、第七回一点を入れ挽回に努めたが十五対六で桜井高女の優勝に歸す

チーム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
桜井高女	4	5	0	0	4	0	2			15
桜友俱樂部	0	1	1	0	3	0	1			6

桜井高女

5 富田 27 打 数 26
6 南 15 得 点 6
1 澤邊 9 安 打 6
2 井關 13 三 振 14
3 安井 13 四死球 7
4 安田 0 盗 塁 0
7 福井 0 犠 打 0

桜友俱樂部

5 河井
6 島田
1 山中
2 村上
4 八倉
7 森田
9 辰巳

8 三島

5 矢 策 7

8 松田

9 島津

3 竹中

大阪毎日新聞 1925(大正14)年04月11日付より

大阪毎日新聞 1925(大正14)年04月13日付より

発 行 2012年05月11日

著 者 弘田 正典